

企画経済委員会 委員協議会 記録

1 会議の日時	開会 午前 10時00分 令和7年11月21日 閉会 午前 11時40分		
2 会議の場所	第2委員会室		
3 出席者	委員	委員長 所 竜也 副委員長 小川祐輝 岩井 豊太郎 平岩 正光 松岡正人 酒向 薫 伊藤英生 和田直也	
	執行部	別紙配席図のとおり	
4 事務局職員	課長補佐 水野 智裕 主任 辻川 未紗		

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 スポーツの振興について ・F C岐阜の課題について 【参考人】株式会社岐阜フットボールクラブ 代表取締役社長 小松 裕志 氏 取締役会長 宮田 博之 氏	
2 その他	

6 議事録 (要点筆記)

○所竜也委員長

それでは、ただいまから企画経済委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るために開催したものである。

議題は、お手元に配付した次第のとおりである。

執行部については、今回の議題を所管する所属を中心にお聴かせていただいている。

本日の委員協議会は、株式会社岐阜フットボールクラブの小松社長、宮田会長から、直接お話を聞かせていただき、FC岐阜の現状を把握し今後の支援の在り方を考える機会とすることを主な目的として、開催するものである。

まず、はじめに、議題1「スポーツの振興について」とし、参考人として、株式会社岐阜フットボールクラブの小松社長、宮田会長にお聴かせていただいている。

それでは、小松様、宮田様から報告をお願いする。

(参考人説明：株式会社岐阜フットボールクラブ 代表取締役社長 小松 裕志 氏
取締役会長 宮田 博之 氏)

○所竜也委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○酒向薰委員

チーム編成におけるGMや監督の役割分担は。

○小松参考人

FC岐阜は「1点取られても2点、3点取り返す」というブレないサッカーの方向性を設定し、監督・GM・クラブが協議してチーム編成を行っている。

○伊藤英生委員

成績が振るわない際の選手やスタッフのモチベーション対策は。

○小松参考人

選手との個別面談に加え、順位に連動して勝利給が増える給与体系を導入し、勝ち続けるほど報酬が得られる仕組みで正当に評価している。

○松岡正人委員

アカデミーチームの練習場について、既存施設の利用だけではなく、河川敷のサッカー場を有効活用するなどできないのか。

○宮田参考人

河川敷は個別に固定設備（照明、トイレ）の設置が必要であり、夜間練習ができないため練習場としての活用は難しい。

○小松参考人

FC岐阜のアカデミーの練習環境は、Jリーグの中で圧倒的に最下位であると認識している。FC岐阜支援連絡協議会にて、県内の市町村に対し、クラブの費用負担で各地域のグラウンドの整備を行う代わりに、FC岐阜が優先利用できる仕組みを提案しているが、候補地が遠隔地であるなど、中々まとまらないのが現状。

○和田直也委員

Jリーグのシーズン移行（2026年の開幕時期を2月から8月へ変更）に伴う課題や影響は。

○小松参考人

基本的にはプラスに捉えたい。シーズン移行に伴い、トップチームに限らず、育成年代も含めて、海外リーグとの交流を活発にできるため、海外チームとの連携も模索しているところ。課題としては、現行の

スポンサーとの契約期間の問題などがある。

○小川祐輝副委員長

J 3 へ降格した際、県、市及び F C 岐阜がクラブ再建に向けた意見交換をし、クラブ再建計画を発表した経緯があるが、新知事を交えた意見交換を行い、中長期ビジョンを発表する予定はあるか。

○小松参考人

新知事就任後も意見交換は行っているが、中長期計画のような内容では行っていない。早急に作成し、知事含め県と目線を合わせていく必要があると感じている。

○宮田参考人

J 3 チームのうち半数以上が、専用スタジアムを有しているが、スタジアム建設までに 5 ~ 6 年かかるため、他チームの専用スタジアム建設の動きに遅れないよう早期の実現を目指していきたい。

○広瀬修議員（傍聴）

「F C 岐阜ウェルビーイングプロジェクト」（地域活性企画）の狙いは。

○小松参考人

「岐阜で一番愛される集団」を目指すことをミッションとしている。サッカー以外の分野（運動能力向上、フードドライブ事業など）で地域貢献することで、「F C 岐阜を応援することが岐阜に貢献すること」という認識を広め、勝敗に関わらず応援されるように存在価値を高めたい。長期的にはフットボールクラブではなく、様々なスポーツを東ねるクラブを目指していきたい。

○平岩正光委員

ホームタウン制による効果や、市町村との連携方法は。

○宮田参考人

F C 岐阜としては、各地域で行われるイベントや地域活動へ参加させていただいているほか、各市町村からは、ホームタウンデーとして、F C 岐阜の試合の際に、各市町村の観光や名産品などを P R していただいている。

○小松参考人

F C 岐阜は県内全市町村がホームタウンとして参画いただいていることから、出店しているスタジアムグルメのラインナップが毎回変化しており、J リーグからも楽しみの一つとして評価いただいている。

○平岩正光委員

県内全域から愛されるチームとなるよう、ますます励んでいただきたい。

○宮田参考人

最近では、アウェーの試合にも岐阜から多くのサポーターの方々が観戦に行っており、各地域のグルメや温泉等を楽しんでいると伺っている。これは、岐阜に来ていただく相手チームのサポーターも同様と考えられるため、集客が増えしていくことで、関連市町村への相乗効果も大きくなっていくと考えている。

○今井瑠々議員（傍聴）

パブリックビューイングについて、東濃地域など、県内全域で行うことはできないか。また、クラブの目指す姿として、手本にしているモデルチームはあるか。

○宮田参考人

パブリックビューイングについては、放送局の都合上、数を増やすことは難しいが、実施会場については検討していきたい。

○小松参考人

J 1 のファジアーノ岡山では、複数の行政管理施設の指定管理者となり、自主事業で人を呼び込むイベント等を展開している。F C 岐阜としても、岐阜県内各地域でこのような活動を展開していければと考えている。

○酒向薫委員

プロクラブとして練習場がないのは致命的であり、県として何らかの支援ができないか。

○小松参考人

トップチームの練習場としては、しっかり整備していただいている。アカデミーチームについては固定の練習場が無く、喫緊の課題と捉えている。

○渡辺観光文化スポーツ部長

アカデミーチームの練習場に関する課題については、様々な機会を通じて、関係市町村とも意見交換をさせていただく。また、長良川競技場の利用時間についても、要望として受け止めさせていただく。

○岩井豊太郎委員

少子化に伴い、他のスポーツでは競技者を集めるために苦労している。サッカーについてはいかがか。

○宮田参考人

学校単位でのチーム作りが困難な地域もあり、そういった地域は指導者不足の問題も抱えている。サッカーに関しては協力できる部分もあると考えており、機会があれば各地域と話をしてみたい。

○和田直也委員

ウェルビーアイングプロジェクトは、社会貢献だけでなく、地域経済を回す戦略もあるか。

○小松参考人

ウェルビーアイングの取組では、無料ではなく、お金が循環する仕組みを構築したい。これにより、現在のスポンサー収入に依存をしている体質も変え、活動自体が地域経済に貢献できる存在となることを目指す。

○所竜也委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって質疑を終了する。

そのほか、何か意見等はないか。また、執行部はいかがか。

意見もないようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

企画経済委員会 委員協議会 配席図

令和7年11月21日

第2委員会室

